

キャラクター名
日野 幸雄

— プレイヤー名 —————

シンドローム	モルフェウス	ワークス	刑事	カヴァー	刑事
	ノイマン				
オプショナル		年齢	30代中盤	性別	男性
覚醒	憤怒	衝動	嫌悪	初期侵食率	32
出自	義理の両親	経験	伝説	邂逅	慕情

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	25
肉体	1	0	0			1	行動値	9
感覚	2	1	0			3	(非装備時)	9
精神	3	0	0			3	戦闘移動	14
社会	2	0	0			2	全力移動	28

肉体			感覺			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	3		射撃	1		R C			交渉		
回避			知覚	1		意志			調達	1	
運転： 四輪	2		芸術：			知識：			情報・裏社会	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

灰色に所属する為に、白黒に行けない子供を連れて来た事にしたかったが子供の設定付けそびれたので考える事。
例、東洋はアソトナリにする事

「灰色酒場には、事件で何色にも染まらないオーヴァードと関わった時、はみ出し者を拾う少女が居るという噂から24時間で辿り着いた。」
底层の流れが今存在していないから、この部分が使わてないから？ 分かんない

かつては警察官の恋人が居て、彼女はオーヴァードで、
警察内でも対オーヴァードの部署に希望して配属されていた。
自分はその事業をこっそりと聞かされて協力者として活動してきたが、
ある時、対ジャームの事件で警察の威厳とUGNへの態度のために窮地へと追い込まれた。
原因は明白だった。
まずは、助けていた他人へ手を伸ばしてしまったこと。
つぎに、助けなんて期待できる状況じゃなかったこと。
そして、自分たちでも少しじゃなんとか出来ると思い込んでしまったことだ。
結局的に彼女は死に、自分は死から蘇った。
吉田五郎 実家のところへ、彼女と並んでお土産として

やる気の見えない不良刑事。冷静で肝が据わっている。誰かの為に頑張ってる奴は好き。

監察のオーバークトへの意識や体質を嫌っていて、あまり組織に情はない。